

令和6年度 第2回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和6年8月26日（月）19時00分～20時30分
- 場 所：土浦市消防本部 3階 講堂
- テーマ：在宅療養における栄養管理
- 出席者：43名（アンケート回答率：97.6%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	3	7.1
30代	10	23.8
40代	7	16.7
50代	10	23.8
60代	10	23.8
70代以上	2	4.8
合計	42	100.0

【職 種】

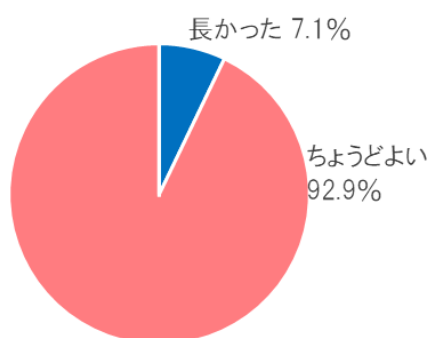
	人数	割合
介護支援専門員	16	38.1
薬剤師	16	38.1
看護師	2	4.8
介護職	1	2.4
精神保健福祉士	1	2.4
理学療法士	1	2.4
（管理）栄養士	1	2.4
医師	1	2.4
歯科医師	1	2.4
保健師	1	2.4
社会福祉士	1	2.4
合計	42	100.0

2. 本日の研修会について

（1）講演についてお伺いいたします

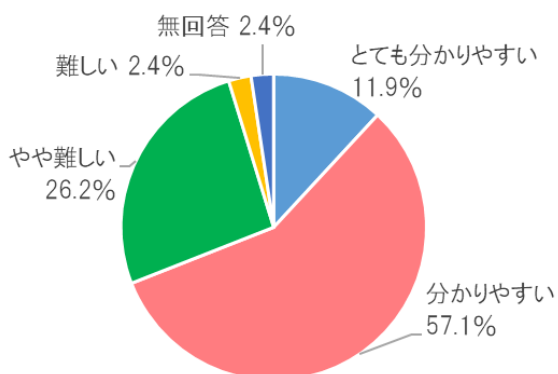
①講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	3	7.1
ちょうどよい	39	92.9
短かった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	42	100.0



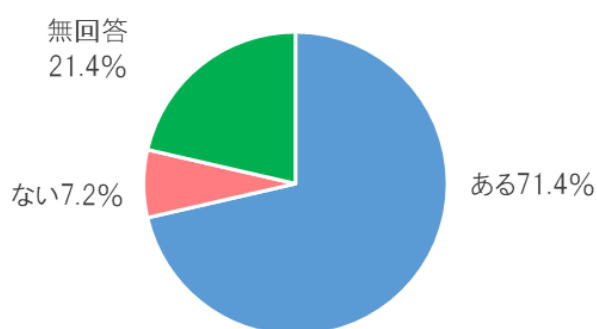
②講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とてもわかりやすい	5	11.9
わかりやすい	24	57.1
やや難しい	11	26.2
難しい	1	2.4
無回答	1	2.4
合計	42	100.0



③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	30	71.4
ない	3	7.2
無回答	9	21.4
合計	42	100.0



【「ある」と回答した方：具体的な内容】

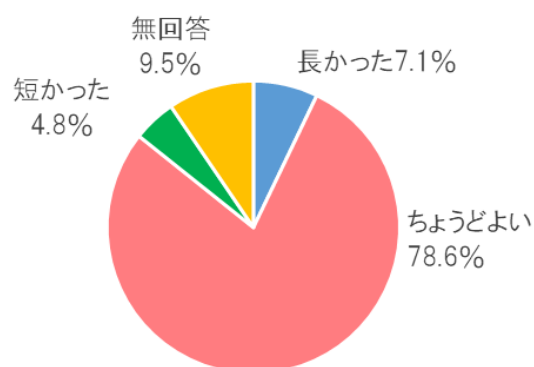
- ・利用者が負担の少ない食事のとり方を考えていきたい。
- ・栄養士との連携
- ・リハが嚥下に与える影響を周知する
- ・栄養ケアが必要な患者をどこにつなげればよいか
- ・栄養指導が必要な方に声掛けをして、生活に取り入れられるように働きかける
- ・食事の重要性を伝える
- ・栄養評価と、相談先があることを学んだ
- ・栄養ケアステーションへの相談
- ・食べられなくなってしまったものなどの相談など（嚥下や噛む力の指標として）
- ・より栄養指導を意識した服薬指導
- ・利用者への栄養状態の評価を、客観的に行いたい
- ・在宅において居宅療養管理指導を利用してみたいと思いました
- ・栄養ケアステーションに相談したいケースが思い浮かんだ
- ・看取り期の栄養（食べられる時に食べられるもの）
- ・栄養指導の大切さを歯科医師会にて話す、又は講師として呼び出す
- ・栄養指導の介入
- ・通院時情報連携等

- ・栄養指導のとり入れ
- ・アセスメントする際の参考にしたい。相談先を知ることができてよかった
- ・食事は重要なものなので、栄養面にも注意して、利用者と関わりたい
- ・居宅対応している方で、栄養面の不安がある方への紹介
- ・栄養士もケアチームと一緒に参加してもらい、自宅で看取りまで取組ができるようになればいいかなと思います
- ・Drからの指示で管理栄養士の介入ができること、ただ契約するにはハードルが高い
- ・栄養ケアステーションについて、職場内で周知したい
- ・栄養指導が必要そうな方がいたら、Drにもフィードバックしていきたい
- ・口腔ケアから栄養に関して多職種との連携
- ・実際に現在行っている、在宅における栄養介入で、食べられないときの改善策や食欲をあげる工夫、エネルギーアップのコツなどを参考にさせていただきたい
- ・栄養士さんとの連携
- ・栄養に関しても在宅医療に必須であることが分かり、在宅患者の現状の状態を、必ずまず確認する

(2) 意見交換会について、お伺いいたします。

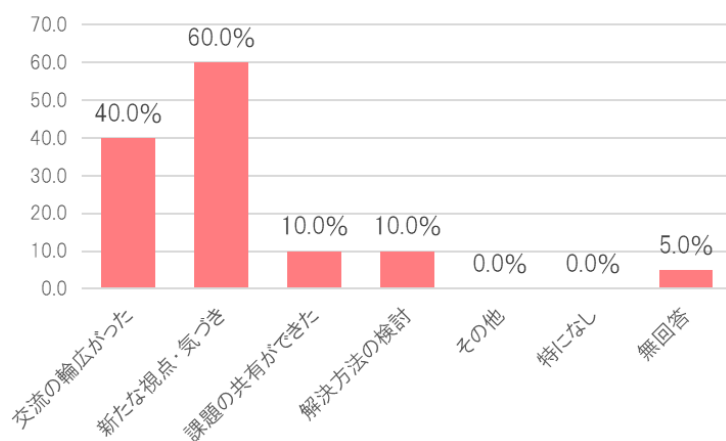
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	3	7.1
ちょうどよい	33	78.6
短かった	2	4.8
無回答	4	9.5
合計	42	100.0



②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？

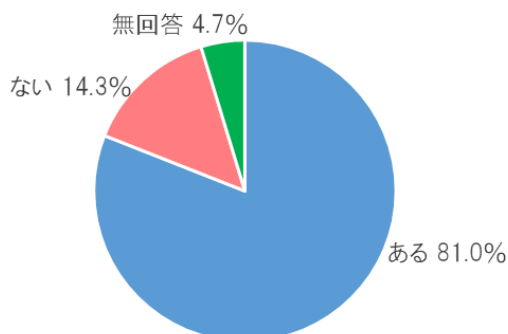
	人数	割合
交流の輪広がった	24	40.0
新たな視点・気づき	36	60.0
課題の共有ができた	6	10.0
解決方法の検討	6	10.0
その他	0	0.0
特になし	0	0.0
無回答	3	5.0



(3) 在宅療養・歯科医療の支援についてお伺いします。

①日所の業務の中で、在宅療養に携わることがありますか。

	人数	割合
ある	34	81.0
ない	6	14.3
無回答	2	4.7
合計	42	100.0



②円滑な在宅療養支援のため、日頃実践していることや、課題に感じていることを教えてください。

【実践していること】

- ・ 状態変化があれば各所に報告
- ・ 時間調整
- ・ 要支援の方を含め、在宅医療の声かけ
- ・ 主治医への訪問や電話での報告や助言・指示を受けて
- ・ てんかん、胃ろう利用の患者様の食事量、体調変化のチェック
- ・ 訪問看護
- ・ 栄養に関して家族の理解がない
- ・ 自分でパンフレットを集めている"
- ・ 主治医が訪問時に合わせて、訪問するようにしている
- ・ 多職種との連携
- ・ 利用者の不利益にならないように、じっくりと話を聞く
- ・ 連携
- ・ 他事業所・多職種連携
- ・ ケアマネ等からの依頼は必ず受ける
- ・ 多職種での連携
- ・ 通院の初回時には、必ず主治医に情報連携させていただいています
- ・ 利用者の状態観察、看護師との連携、家族の意向
- ・ 連絡を密にする
- ・ できるだけ患者さんの話を聞く、傾聴⇒状態その他なんでもよいので。良好な関係を築きたい
- ・ 多職種連携会議への参加
- ・ 在宅の話があれば速やかに対応する
- ・ 患者、家族の連携
- ・ 薬のこと以外のことも確認する（食事、水分労、口腔ケア、運動量等々）
- ・ 患者様にお声かけ
- ・ 患者と密接に関わること

【課題に感じること】

- ・ 食事の確保
- ・ 家族の理解
- ・ 本人の好みに合わせると困難
- ・ 報告のスピードが遅くなることがある
- ・ 連携ができない
- ・ シックデイ時の対応
- ・ 本人、家族の希望に沿った在宅療養に実現
- ・ 利用者と栄養に関する関わりが少ない
- ・ 主治医との連携が難しい
- ・ ケアマネジャーがなんでも屋になってきていること
- ・ 多職種とのコミュニケーションをさらに
- ・ 緊急時の対応がすぐに困難
- ・ 先生のほうで、ケアマネからの情報が生かされているのか確認できないこと
- ・ 課題は共有できても、職種で温度差がある場合
- ・ 多職種とスムーズに連携できない
- ・ 在庫のない薬をどのように用意するか
- ・ 家族があまり積極的でないこと
- ・ 多職種との連携

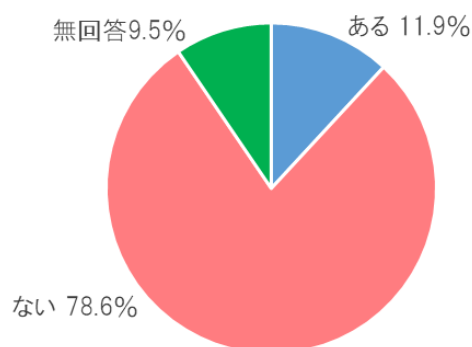
③どのようなツールがあれば、連携しやすいですか。

- ・ 介入している職種、家族がアクセスできる手帳やアプリ
- ・ 在宅連携ノートはとても助かっています
- ・ 高齢者が使えるツール
- ・ 情報共有に使える、掲示板のようなアプリケーション
- ・ ネットワークツール
- ・ 電話、メール
- ・ 連記ノートの電子化
- ・ LINE
- ・ 主治医⇄CM の連携ツール
- ・ 相談や話がしにくいので、相談先が分かると良い。
- ・ ICT も良いのだが、使いこなせるか自信がない
- ・ グループワーク
- ・ サービスの空き情報
- ・ うーん、これはとにかくあったり、こちらからアプローチしあり、顔の見える関係をつくる
しかないかなあ
- ・ パンフレットの活用

- ・ Dr の所見が、意見書に出している内容以外が共有できるもの
- ・ 連携網のようなものがあればいいかと思う
- ・ ツールではないですが、在宅開始前の、担当者会議開催がありますと、顔の見える状態での連携スタートとなり、その後の連携がしやすい
- ・ メールや FAX

④ 今までのケースで、在宅訪問栄養食事指導を利用したことがありますか。

	人数	割合
ある	5	11.9
ない	33	78.6
無回答	4	9.5
合計	42	100.0



【利用したケース】

- ・ 嚥下障害、糖尿病のある方への調理
- ・ DM、独り暮らし
- ・ 県栄養士会連携
- ・ 認知症で食欲がわからない、食事で遊んでしまう
- ・ 校医している子供に対して、高木歯科フラットの峯山さんをお願いした
- ・ 多臓器不全に近い重症な在宅患者を支援する家族への栄養指導

⑤ 管理栄養士・栄養士との連携に対して感じていることはありますか。

- ・ 普段、お会いしたりお話しする機会がなく、知り合いの栄養士がいないので、相談等がしにくい。
- ・ 接点がない
- ・ 訪問指導があることを知りませんでした
- ・ 対面での投薬中に栄養士の意見をスムーズに行えるようになるとありがたい
- ・ どうつないでいけばいいか悩んでいた
- ・ 人数が少ない
- ・ 依頼しにくい
- ・ 介入の機会が少ない、透析が介入になった時など、ケアマネと一緒に相談を受けたい。でないと、何を聞いたのか全く把握できない

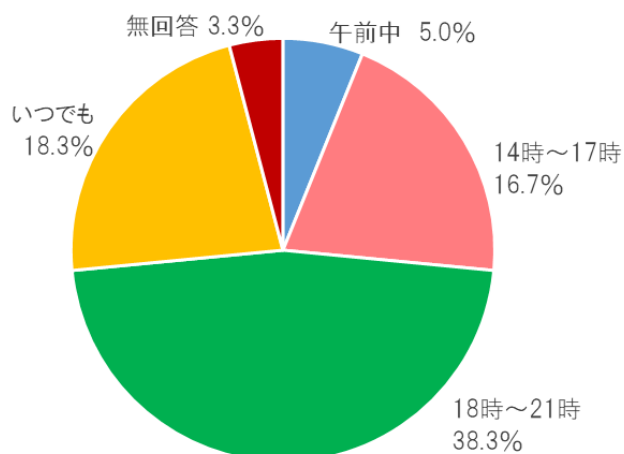
- ・利用をしていきたいと思いました
- ・本人、家族がそこまで希望しない場合が多く、なかなかつなげられない
- ・相談しやすい体制を整えてほしい
- ・特になし
- ・慣れていないので、今回を機会に連携を図りたい
- ・大切な方々だが、医療は栄養を軽視しているということは、よく言われている
- ・どこに相談したらよいか分からなかった
- ・食事形態について提案していただきたい
- ・糖尿病などの疾病の方とは、栄養面については家族にお任せだったので、直接関わることがなかった。今回知ることができて、意識していきたいです
- ・どうしても、知識として得たものを、どう現実、実際に使えるか。手間も時間も、本人も家族も大変！！
- ・栄養士連携があることを初めて知りました。今後の活動（在宅）で連携できることがあればいいと思います
- ・連携の機会がない
- ・相談の窓口が少なく、契約が難しいと感じる
- ・栄養ケアステーションの認知度が低いと感じた
- ・今回相談先を知ることができて、良かった
- ・在宅での栄養士派遣ができることを知らない Dr も多いので、そのあたりの周知も必要だと思う
- ・相談しやすい場の提供
- ・「フラッと」くださりありがとうございます
- ・医師の指示必要というところで、紹介や相談窓口、つながるところが難しい
- ・どこに連絡すればよいか分からない
- ・関わりが皆無であるので、もう少し関わっていただきたい
(よりよい医療の提供をするために)

(4) 今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか。

- ・リハビリテーション職種ができること
- ・リハビリ系
- ・特になし
- ・多職種連携についてもっと深めたい
- ・入退院連携のことで、病院側の考えを聞いてみたい
- ・終末期
- ・リハビリ
- ・何でも参加してみたい

(5) 研修会などに参加できる時間に○をつけてください。

	人数	割合
午前中	3	5.0
14時～17時	10	16.7
18時～21時	23	38.3
いつでも	11	18.3
無回答	2	3.3



(6) 最後に、お気づきの点や、ご感想などがありましたら、自由にご記載ください。

- ・ 特になし
- ・ もう少し早めの研修時間が良い
- ・ 話し合いでの事例検討の用紙があると良いと思います。又、話し合う内容を書いてあると良かったかなと思いました。
- ・ いつも歯科医が少なくて、すみません
- ・ 多職種の方の視点で、お話を聞くことができ、大変勉強になりました
- ・ 事例検討：スライドが欲しい。後ろからは見えにくいので、配布があると助かります
- ・ 貴重なお話でした